

第3章 評価の結果に対する対応方針

分科会の評価結果を受けて、国土技術政策総合研究所では以下のように対応する。

■平成29年度第4回国土技術政策総合研究所研究評価委員会分科会（第三部会）

・空港舗装の点検・補修技術の高度化に関する研究（事後評価）

評価結果を踏まえ、新たな点検手法については、今後、空港管理者との連携を通じて、実空港で利活用いただいたデータを蓄積することで定量的な評価を通じ、有効性を確認していくとともに、打音測定車の性能向上等、更なる効率化を目指して研究を進めて参りたい。

新たな補修技術については、空港舗装に求められる性能等に応じた補修工法が選択できるよう整理するとともに、実施中の事項立て研究「地震災害時における空港舗装の迅速な点検・復旧方法に関する研究」への展開にも配慮し、実空港で広く活用されるよう取り組んで参りたい。

その他、ご指摘いただいた事項についても十分留意して、研究を進めて参りたい。

■平成29年度第5回国土技術政策総合研究所研究評価委員会分科会（第一部会）

・津波防災地域づくりにおける自然・地域インフラの活用に関する研究（事後評価）

評価結果を踏まえ、津波防災地域づくりへの研究成果の反映に向けて、植物の耐侵食性を植物群落等から容易に推定できるように現地調査結果を整理するとともに、まちづくりや住民意識の向上にも留意して成果の活用方法をさらに検討するなど、引き続き研究をして参りたい。

また、津波浸水想定シミュレーション相談窓口の立場から、自然・地域インフラの減災効果の評価方法等に関する都道府県等への技術支援を行い、研究成果の普及を図って参りたい。

・気候変動下での大規模災害に対する施策群の設定・選択を支援する基盤技術の開発（追跡評価）

評価結果を踏まえ、研究成果の都市分野での活用について、高リスク地区から低リスク地区への開発誘導方策について引き続き研究を進めてまいりたい。立地適正化計画のみならず、都市再生、都市マスタープランでの活用を図ってまいりたい。

また、海外を含めた活用を促進するため、引き続き国際的な情報交換を進めるとともに、土木研究所水災害・リスクマネジメント国際センター（ICHARM）と連携しつつ、ソフトウェアの開発について検討してまいりたい。

さらに、長期的な観点からの現実社会への反映状況の検証手法について引き続き検討してまいりたい。

・ 道路交通の常時観測データの収集、分析及び利活用の高度化に関する研究（追跡評価）

評価結果を踏まえ、データの取り扱いに留意しつつ、ETC2.0 の普及促進にもつながる ETC2.0 を利活用したサービスの拡充に向けた研究に取り組んで参りたい。

また、データのオープン化の流れも踏まえつつ、民間プローブデータも含めた道路交通に関する各種データの特性を生かした有効な利活用方法の研究に取り組むとともに、データのニーズの把握や、データを活用したサービスの提案等によるデータの有効性の認識向上に努めて参りたい。

さらに、道路交通の円滑化、道路交通安全等の道路施策に加え、地域振興・観光振興等の多様な行政ニーズも踏まえ、これらに対応した道路交通データの分析手法の高度化に取り組んで参りたい。

■平成 29 年度第 6 回国土技術政策総合研究所研究評価委員会分科会（第二部会）

・巨大地震に対する中低層建築物の地震被害軽減技術に関する研究（事後評価）

評価結果を踏まえ、「鉄筋コンクリート造における二次壁の損傷抑制技術」については、既存建物への適用やコスト面での検討を今後継続し、本研究の成果が活用されるようガイドライン（案）を公表し、性能評価機関における業務方法書等に反映されるようフォローして参りたい。

「基礎構造と上部構造のバランスを考慮した建築物の耐震設計技術」については、大地震に対する杭の設計が可能となるよう、成果を建築基礎構造設計指針等へ反映させ、今後も建物・基礎・地盤の相互作用に関する検討を継続して参りたい。

・住生活満足度の評価構造に基づく住宅施策の効果的実施手法に関する研究（事後評価）

評価結果を踏まえ、個人・家族の住まい方の変化、要介護高齢者の増加、国際化の進展等の社会の変化に対応して、評価項目を随時見直して分析を継続するとともに、地域性の観点からよりミクロの分析を行うなど、調査・研究の継続と発展に努めて参りたい。

また、研究成果を住宅生活総合調査や住生活基本計画への反映を図るべく、取り組みを進めて参りたい。

その他、ご指摘いただいた事項についても十分留意して、研究を進めて参りたい。

・都市の計画的な縮退・再編のための維持管理技術及び立地評定技術の開発（事後評価）

評価結果を踏まえ、本研究で開発したツールやマニュアル(案)等については、主たるユーザーとなる地方公共団体や民間コンサルタント等による現場での活用を念頭に、分かりやすさ・使いやすさ等の観点から精査を行い、本省関係各課とも調整しつつ、普及を進めて参りたい。

「郊外市街地の地区マネジメント支援ツール」の活用にあたっては、急激な社会構造の変化等への対応や超長期の予測には限界があり、定期的な将来予測と計画の見直しが必要であること等を留意事項としてマニュアル(案)に記載することとして、成果の公表を進めて参りたい。今後、同様の点に留意しつつ、医療・福祉施設の適正配置予測プログラム（空間的将来需給予測、施設整備に係る費用対効果予測）の開発に展開して参りたい。

新技術・新産業の立地評定技術の開発については、定量的評価に馴染みやすい「まちなかものづくり事業所」の「騒音」に重点を置きつつ、評価ツールの開発と特例許可の審査プロセスにおける活用の検討を行ってきたが、新技術・新産業への適用可能性についても留意して、成果の公表を進めて参りたい。

また引き続き、他の用途や外部影響項目を含めた用途規制の特例許可の審査方法の開発に展開して参りたい。

・地震時の市街地火災等に対する都市の脆弱部分及び防災対策効果の評価に関する研究(事後評価)

評価結果を踏まえ、傾斜地における延焼危険性の評価や、密集市街地にある車両が地震火災時に及ぼす影響については、検討条件を明示するなどして社会的に誤解を招かないよう留意しながら成果の公開を進めるとともに、今回検討した条件以外のケースについても、モデルの見直しを含めて引き続き検討を行い、妥当性を高めて参りたい。

シミュレーションについては、地方公共団体における戦略的な密集市街地整備に資するよう、シミュレータや解説書等を今後公開していくとともに、モデルの精緻化と使いやすさの両方の観点から、継続的に改良を行って参りたい。

密集市街地の今後の整備については、延焼遮断帯の形成などの都市的な対策をこれまで通り行うことの必要性に加え、地区内では効果的な改善箇所を集中的に改善することが重要である、ということ、誤解無く伝わるように留意しながら地方公共団体等への成果普及・技術指導を行って参りたい。また、コスト面等を考慮しながら、該当箇所でのふさわしい改善案の選択方法について、引き続き検討して参りたい。

その他、ご指摘いただいた事項についても、ご指摘の主旨に十分留意して、今後の展開を進めて参りたい。